

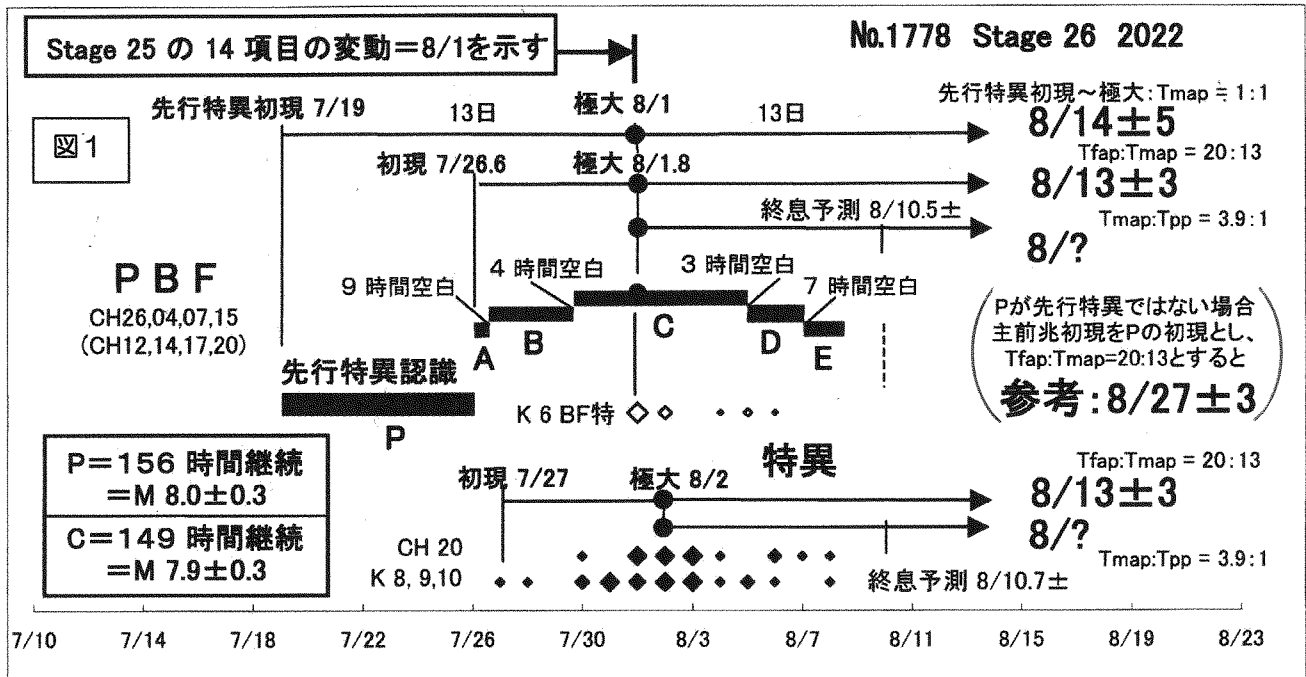
PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.332

2022.08/08 (月曜) 16:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

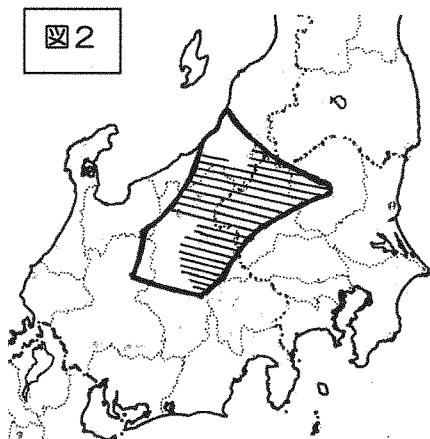
No.1778 長期継続前兆 続報 8/10~11 前兆終息の場合= 8月13日 発生の可能性 (あくまでも参考: 8/11 前兆が終息しない場合=8月27日±3 発生の可能性も有)



続報No.331で報告のとおり、昨年11月以降の14項目の前兆変動変化から7月末±数日が計算されました。しかしそれは発生日ではなく、次ステージの極大8月1日を示していました。8月1日極大前兆変動がステージ26認識。7月末±数日時期を発生時期とした理由は、14項目の変動が終息した時期に八ヶ岳の複数観測装置に出現したPBFを余震前兆変動の可能性と認識したためです。誠に申し訳ありませんでした。

ステージ26の主前兆変動はPBFで、図1のとおりの出現状況です。図1のPは先行特異認識です。A~EのPBFが主前兆変動認識。極大が認識できるCのPBF継続時間を主前兆PBFの規模推定根拠継続時間とします。図1の認識(P=先行特異認識)が正しい場合は8/10~11に前兆変動終息の可能性が計算できます。終息すれば、8/13±3発生の可能性。但し終息しない場合は先行特異認識が誤認で、Pの初現が主前兆初現となり、8/27±3発生の可能性となります。しかしPの継続時間は156時間と長く、主前兆の一部とは非常に考え難いため、Pはやはり先行特異で、8/13±3発生の関係が考え易い状況です。8/10~11に前兆変動が終息するか注目。8/11or12に続報を出せればと考えています。

※2022.July.までの推定領域に図1のPBF出現推定影響局を加味した結果、推定領域が狭められています。



No.1778 対応地震 推定内容

- ◆推定領域: 図2太線内領域(火山近傍領域)
斜線域=可能性考え易い参考推定領域
- ◆推定規模: M8.0±0.3
地震に伴う近隣火山活発化or噴火=完全否定は困難
過去例と異なる変動有のため推定困難
- ◆推定時期: 2022年 8月13日 or 14日 (8/14±1)
の可能性が考え易いが今後の変化で修正の可能性も有
- ◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻: AM 9:00±2 又は PM 5:00±3